人と自然が共生するカタクリ100万本の里山

矢環境緑化実行委員会

座長： 一言、パワー・力ということに関してお願いできますか。

Ａ：力といっても、最近、どこでもそうですが、里山が大変荒れていますね。それをきれいに伐採しなければいけないのですが、初めはボランティアですから、できるかなと思って心配していました。しかし、１人で入って木を切り、草を刈っていたら、地区は26戸ですが、26戸全部の人が来てやっていただいたことが大変力になったと思います。ボランティアですから、それほど人は集まらないのではないかと思っていたのですが、全戸が来てくださいました。それで活動が始められたと思っています。それが今でも続いているのです。

「かたくりまつり」は今年で７回目ですが、参加者はだんだん多くなってきているような気がしています。

座長：みんな元気で、それでさらに元気になっていったという感じですか。

Ａ：そうです。大阪からも日本旅行のバスが２台ぐらい来ますし、遠いところでは、東は横浜、西は山口県の人も来ていただいています。その人たちの話を聞くと、大変元気が出ます。

座長：しかし、本当にきれいな写真でしたね。

Ａ：最後の写真は、カタクリが多いところを撮ったわけではないのです。実際にこういう状態です。それで人に見ていただこうかなと思ったわけです。

Ｑ：私は、実は「カタクリ大好き人間」でして、これはぜひ見に行きたいなと思いました。私は京都の亀岡に住んでいるのですが、京都でも、西山の大暑山の麓でカタクリが群生しています。ただし、鹿がやってきて食ってしまうので、矢地区では獣害の問題はないのでしょうか。

もう一つ、カタクリの移植はものすごく難しいですね。地域を広げて家のポットに植えるわけにはいかないから、どういう形で場所を広げようとしておられるのかなと思うのです。

Ａ：うちの地区では、獣害はありません。

カタクリは、種もできますし、球根でも殖えます。種が地面に落ちても、７～８年は花は咲きません。

Ｑ：アリが運ぶのですね。

Ａ：上のほうに上がるということは、アリが運ぶのでしょうね。

Ｑ：カタクリは、アリの卵によく似たにおいを出すので、アリが自分の卵と勘違いして運ぶのです。

Ａ：この写真の１ヘクタールは、自然そのままです。あとまだ２ヘクタールあります。

Ｑ：私が心配するのは、きれいだからといって採る人がいることです。採っても根づかないことをみんなに知ってもらいたいなと思います。

Ａ：私の息子が京都の伏見に住んでいまして、近くの桃山あたりにカタクリが咲いているらしいのですが、そのあたりの人はあまり宣伝していません。言うと採られてしまうのです。

私たちのところも、採ることは許可していません。仲間に入っていただいています。

カタクリのいいところは、１つの花でもさまになることです。桜は、たくさん咲いていなければ人も来ないし、写真にもなりませんが、カタクリは、１つの花できれいな写真になります。

座長：カタクリ愛がすごく伝わってきますね。

Ｑ：ただし、いつ行っても見られるわけではないのですよ。太陽の動きとともに咲いたり閉じたりします。

Ａ：そうなんです。日が差さないと花が開きません。遠いところから来ていただいても、曇っていたり雨が降っていると、花が開かないのです。それが一番の欠点です。

Ｑ：事務局の高松ですが、補足します。

我々のところは、増やす努力はしていません。我々も最初は、増やす努力をして一面を紫のじゅうたんのようにしようと思ったのです。愛知県や岐阜県でも、群生地があって、種を蒔いたりしているところもありますが、よく考えると、この写真でもそれほど密集していないように見えるでしょう。我々が整備する前からこの間隔なのです。これがカタクリにとって一番いい間隔、つかず離れずの間隔だと思うのです。これを無理に我々が種を蒔いたり、球根を間に植えて増やすことは、果たしてカタクリ

にとって幸せかなと思ったので、我々は自然のままにしているのです。

来られた方の中には「まばらやな」と言われる人もいますが、「絶妙なつかず離れずの間隔で咲いているのですよ」といつも言っています。これが長く保存できる間隔ではないかなと思っています。人に見せることよりも、カタクリにとって一番いい条件を模索しながら、我々は整備しています。

これは、大阪や滋賀や京都から来られた山菜愛好家の方が教えてくれたことです。そういうことで接しています。

京田辺市の自然を活かしたまちづくり

NPO 法人　やましろ里山の会

座長：パワーについて一言お願いできますか。

Ａ：私たちの力の１つは、毎週水曜日の９時半から昼まで、事務局会議を開いていることです。これは、誰が来てもよくて、お茶を飲みながら、ワイワイガヤガヤやっています。これが一番大きな力かなと思います。

全ての事業・イベントを合わせますと、１年間に 100 回はあります。１日に３つぐらいある日もあります。そういったことは、すべてオープンでやっています。会員だけの取り組みではありません。

もう一つは、「週刊ニュース」を木曜日に出します。これは 550 号を超えました。また、会誌を半年に１回、500 円ほどかかるのですが、180 ページの原稿を集めて、「おいで、おいで」と呼びかけても、畑に来れない、木津川にも来れない人たちに、「どういうことをやっているのか」を伝えるために発行しています。

普通は言い出した人が一番頑張らなければいけなくなって、これが一番つらいですし、世話人になるのが嫌がられる原因になります。しかし、私たちは、基本的には、責任を追及せずに、みんなでやれることをやろう、そして、楽しくやろう、遊び心でやっています。こういったことが力になっているのかなと思います。

全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す

ふるさと倶楽部

座長：力ということで一言お願いします。

Ａ：私には「夢」がある、これが力です。

Ｑ：上勝町では 55 種類に分別しているそうですが、住民の方は本当にきちんとやられているのですか。

Ａ：分けられていますね。私は、本当は生ごみを見たかったのですが、そこだけしか見せてくれなかったんです。横でお母さん連中が遊んでいる中を、３歳の子どもが持ってきて順番にボックスの中に入れていました。考えたらえらいことです。

徳島県上勝町の町長は、その当時、「うちでは焼却炉はつくらない。将来は資源ごみになる」と言って、最初は 34 分別でやり始めたらしいんです。でも、これではお年寄りなどはわからないからと、できるだけ細かくしたそうです。例えばライターは、６分別ぐらいだと、どこに入れたらいいかわからないでしょう。それで 55 分別にして、将来は 100 分別にするとおっしゃっていました。

収集しないですから、そういう費用も少なくて済みます。一般的な自治体では、ごみ処理関連で税金が１人大体２万円かかっているんですが、ここは 9,300 円です。

一度上勝町へ行ってください。ただし、３万円要ります。まず、泊まらなければいかん。泊まったら買い物をしなければいかん。見学料も 1,000 円要ります。

東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり

亀岡市東堅町自治会文化委員会文化部門

座長：すごくすばらしい切り絵がいっぱい出てきましたが、町の人も切り絵をつくられているということでした。

パワーについては、気を使って途中でいろいろとおっしゃっていただきましたので、今の活動に対してご質問はありませんか。

Q：「継続は力なり」と言われましたが、全くそのとおりだと思います。10年間継続する力があったから、10年間続けられたのだと思います。

資料の最後に努力目標として４つ挙げておられます。この中で、１番目の「伝統文化を大切に」は、今のお話でわかりました。２番目の「町内の生活史に学ぶ」も、今のお話の中で説明がありました。４番目の「高齢化社会の生活を豊かに」もわかります。しかし、３番目の「新しい文化の創造」について私は非常に関心を持ちました。この「新しい文化」というのは、具体的にどういうことをお考えになっているのですか。

A：文化に対する評価は後から出てくるものですから、我々が過去や現在のことをいろいろと記録に残していくことを、未来の人がどのように評価してくれるかなのです。我々は、自信を持って、できる精いっぱいの努力をしながら進めていく、そういう生きざまが新しい文化だと思っています。

うちの自治会は、環境問題にも取り組んでいます。いろいろなことに取り組んでいるのですが、一つのものは一つのもので終わりません。必ず関連します。そういうものが総合してみんなのものになれば、それが新しい文化になっていくと思っています。

Q：私が受け止めたのは、今お話になったことはいろいろとあって、あまりにも分散し過ぎて焦点がぼけるのではないかと思います。私がこれかなと思ったのは、横山先生もおっしゃった切り絵です。文化史の表現の仕方として、切り絵をつくってこられているのですね。ですから、これを表現の力に変えていかれたら、それこそ新しい文化に育っていくのではないかと思います。せっかくこういう立派なものができているのですから、そこをもう少し強調されたほうがいいのではないかと思います。あれもある、

これもあるというのでは、かえって焦点がぼけて、いいものが埋没してしまうような気がします。

A：私自身は、結果を求めていないのです。この切り絵を始めた動機も、私は高校の教師をやっていまして、荒れた生徒と一緒に始めたのがきっかけです。初めのうちは切った紙の後始末ばかりしていましたが、作品ができ始めると、生徒の作品を集めて、公民館を借りて展示会をしました。それが新聞に載りますと、生徒たちに対して周りの人から、「バイクを乗り回してばっかりしていると思っていたら、こんないいこともやっているんだな」と言われて、だんだんと悪さができないようになってきたのです。

さらに評価が進んでくると、小学生の横をバイクで通るときには、エンジンを止めて押して通るぐらいまでになっていったのです。黙っていてもそういうことをしてくれるようになりました。

私はずるくて、生徒指導は大変でかなわないから先に手を打っただけの話ですが、そういうことから始めて、もう 40 年ぐらいやっています。もちろん生徒と一緒に始めたので、独学です。

今は、それをお年寄りたちと一緒にやっているのですが、初めのうちは、「手が動かんし、絵心もないし」と言っていた人も、でき始めたら自信がついてきます。

そういうことで、私はこの切り絵に助けられて、そういう人たちとの輪もできたなと思っています。困ったときに助けてくれたというのが、私と切り絵との関係です。

Q：横山先生が「力は何ですか」と聞かれて、「継続する力ですよ」とおっしゃったのは、そうだと思います。私は、それにプラスして、成果として表現する力を形にされたと思うのです。生活史は文化そのものです。その生活史を切り絵という表現であらわしていく、それを地域の大きなシンボルにされると、明確になっていいのではないか、まさしく力になるのではないかと思います。

A：ありがとうございます。そのお言葉が、私たちの一番の大きな力になります。

“めざせ１トン 学校地域をあげての生ごみ回収”小学生でもできる循環型社会

長岡京市立長岡第四小学校

座長：先生の「活動の力」は、どういうものでしょうか。

Ａ：もちろん地域の皆さんは協力してくださったのですが、地元企業の皆さんが支援してくださることは予想もしていませんでした。「環境は四小やろ」という感じで名前が通っているみたいです。

　ペットボトルのキャップを 860 個集めたら１人分のワクチンになるという運動を、皆さんもご存じだと思います。長岡京市には 10 の小学校があって、あちこちでキャップ集めをしています。ところが、ＪＲ長岡京駅の副駅長さんから電話がありまして、「駅でキャップを集めているんやけど、あんたとこで引き取ってくれるか」と言われました。駅に一番近い小学校は、本校ではないですし、一番近い小学校でもキャップを集めているのです。しかし、うちに連絡をいただいたことも、わからない力が支援をしてくださっているのかなと思います。それは、地域の方々の口コミで広がっていることの証拠かなと思って、それが大きな力になっていると思います。

Ｑ：非常におもしろい発表でした。バイオマスのCO_2換算をされているのですが、私たちの東堅町も同じようにバイオマスCO_2換算ができるような形にしています。しかし、算出するのが結構ややこしくて、それはどういう形で子どもにやらせておられるのですか。

　もう一つ、例えば大気中のCO_2濃度をここにおられる方はどれぐらいご存じなのでしょうかね。それがとても気になります。今は「温室効果ガスの削減」とは言わないですね。「排出量の削減」と言っていまして、排出量を減らす形で取り組んでおられるのですが、そこの観点が、私たちもちょうど今やっていますので、関心があります。

Ａ：私は、平成 24 年度から本校に着任しているのですが、本校は、20 年度からエネルギー・環境教育の指定を受けて実践しています。21 年度に最優秀賞をもらい、22 年度は優秀賞、23 年度も優秀賞をもらっているのです。私は 24 年度に赴任して、「えらいとこに来たな」と思いました。前年にたまたま四小の研究発表を見に行ったのですが、難しくて何もわかりませんでした。

実は、京都教育大学の山下宏文先生という環境教育に熱心に取り組んでおられる先生が、20年度から本校に指導に来ていただいていまして、たまたまですが、その山下先生の門下生が本校の教務主任で６年間いたのです。CO_2の算出については、ルートマイレージなどを調べるときもそうですが、数式が入っていて、数字を入れるだけでポンと出てくるようなコンピューターのソフトをもらっていたのです。本来なら難しい計算をしなければいけないと思うのですが、数字を入れれば答えが出るという形になっています。

あとは、いろいろお世話になったのですが、私自身も、初めて聞いたときには、難し過ぎてわかりませんでした。小学校、まして公立の小学校は、学者を育てるところでもありませんので、「なぜかな」とか、「ほんとかな」という疑問を自分たちの実験なり観察で解決することが大事だと思います。

ですから、「生ごみを集めれば肥料になると言われているが、本当に肥料になののか」という疑問を解決するために試したのですね。コンポスト容器の横にヒマワリのこぼれ種がありまして、成長し始めたときには一番低かったのですが、真夏の８月を超えると、これが一番大きくなって、物干し竿ぐらいの太さになりました。一番初めに大きくなっていたところの太さをはるかに超えてしまったのです。これは、カンカンに暑くても、生ごみの水分を土中から吸い上げ、生ごみのエキスを吸い上げて、こんなに大きく育ったんだとなりまして、ヒマワリが明らかに証明してくれたかなと思っています。

そこから次に、つる性のグリーンカーテンをするときに、市販の肥料ではなく、生ごみでやってみたいという子どもたちの発想が生まれまして、臭いけれども、一輪車に積んで運んでいくことになると思います。来年はさらに立派なグリーンカーテンができるかなと思っています。

Ｑ：実は今年は「国際土壌年」なのです。今の活動は、ぴったりそれにマッチした取り組みになりますので、国連のほうからの表彰があるかもわかりませんよ。この土壌年に合わせてやっていただいたらありがたいなと思います。

CO_2の計算式は、うちのホームページにも数値を入れたら計算できるようなものを載せています。

また、CO_2の30秒おきの動態観察をした結果も公開していますので、東堅町のホームページを見ていただいたら、亀岡市の現在のCO_2の濃度がわかります。400～500ppmぐらいの濃度になっています。

学校のほうですと、保健関係で環境調査が冬にありますね。それで教室の濃度がどれぐらいかを見ていただいたらわかると思います。亀岡の高校では、4,000ppmで換気の必要があるというレベルなのに、平気で授業をしていました。私は、「生徒が寝てても怒れへんで」と言ったこともあります。

貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

橋本夏次

座長：力について一言お願いします。

Ａ：力は、黒子役の喜びを知ることだと思います。それは、サポートに徹することです。

行政マンは、サポートはするが、コントロールしないのが本筋なのです。ボランティアで活動してもらったら、行政は助かります。川がきれいになったら、川掃除をしなくてもいいわけです。そういうことを地域の人たちから教えてもらいました。

Ｑ：すばらしい内容のお話で、しかも、資料もきめ細かく構成されていて、非常に感服して拝見しました。

この活動をする組織の構成はどういう形になっているのですか、具体的に教えてください。

Ａ：例えば環境学習については、学校の先生を中心にして、先生方がしやすいように行政がバックアップしていく組織です。そういうことができる近木っ子会議というものをつくっています。

「近木っ子探検隊」は、平成７年につくりました。それは、大人も子どもも川で遊ぶことによって学びがあるという考え方です。

Ｑ：その中には、当然、子どもも入っているわけですね。

Ａ：もちろんそうです。「近木っ子会議」は、環境学習をサポートするために、小・中・高の先生方を中心に、大学の先生にはアドバイザーとして入っていただいて、行政は、

事務局を担当して雑用をしています。

Q：ということは、純民間ではなく、学校の先生方も含めた行政の組織を使った会になるのですね。

A：私たちはほとんどボランティアです。

Q：公職の方もボランティアですか。

A：そうです。私は管理職でしたから、例えばごみを運ぶときには公用車を出さないとできません。そういう場合は、時間外命令を出して、公務になります。

Q：いわゆる市民活動ではないのですね。

A：行政マンも貝塚に住んでいますから、市民活動的な要素が多分に濃いですね。ですから、コントロールはしません。